



図4. 発見場所の環境

幼生(赤い矢印)の手前にあるのはナメクジの1種の死体 (事例3)



図7. 橋の上で発見されたオオサンショウウオ雌の磔死体 (事例5)



図5. 草地で発見されたオオサンショウウオ成体の腐乱死体 (事例4)



図8. 発見場所の環境

矢印(赤)に死体がある(事例5) 車に轢かれないように約50cm移動させて撮影した



図6. 発見場所の環境

矢印(赤)に死体があった (事例4)



図9. 砂浜で発見されたオオサンショウウオ成体の死体 (事例6)



図10. 砂浜で発見された成体の死体と環境 (事例6)

オオサンショウウオの死亡要因について

オオサンショウウオの保全を考える上で、野外における生活史の解明、とりわけ死亡要因の特定は重要である。しかし、本種の死体が野外で発見されることはきわめて少なく(栃本 1995)、その実態は把握されていない。本報告にあげた事例から、本種の野外における死亡状況の一端をみることができる。

事例1はオオサンショウウオ成体による幼生の共食いが野外において最初に確認されたものである。成体同士による共食いはこれまでに1例のみ報告されている(Kawamichi and Ueda 1998)。事例6は生駒(1960)と同様にオオサンショウウオが大雨による増水で海まで運ばれたと考えられる事例である。コンクリート護岸の上で見つかった幼生の死体(事例3)、耕作地周辺の草地で見つかった腐乱死体(事例4)および橋の上で見つかった轢死体(事例5)については、これらの個体がどうやって発見場所に辿り着いたのか定かでない。しかしながら、オオサンショウウオは堰堤や滝などを迂回するために陸を移動することが知られており(小原 1985; 佐藤・小溝 1994)、本種が陸を移動中に事故死することやそれらが動物によって食べられることがあるかもしれない。トビが本種の死体を落とした例(事例2)は、これを傍証するものである。

その他、2007年9月の深夜に日南町新屋の集落内の路上でオオサンショウウオを口にくわえたタヌキが目撃されている(松永隆宏氏 私信)。2005年10月上旬の午後2時頃に岡山県真庭市の路上でオオサンショウウオを口にくわえたイタチ属の1種が目撃されている(徳永巧氏 私信)。また、本種成体の尾に装着された発信機がおそらく捕食者により破壊され、水田で発見された例(Okada et al. 2006)、日南町新屋で本種成体から脱落した発信機の一部に哺乳類の噛み跡が付いていた例がある(岡田純 未発表)。これらはオオサンショウウオを捕食する動物が存在することを示唆する重要な観察である。

今回発見された日南町新屋における死体(4個体)は、2001年から2005年にかけて約300日行われた調査の中で確認されたものであり、栃本(1995)と同様に本種の死体はかなり発見されにくいと言える。今回日野川で発見された死体5例のうち、3例が河川から離れた草地や路上などで発見されていることも、死体が発見されにくい一因になっていると思われる。

すでに述べたように堰堤などの人工的な河川構造物や滝などの障壁の存在が、オオサンショウウオの死亡事故や動物による捕食を促している可能性があり、今後検証していく必要がある。本種の生息地、特に個体

数の多い地域では今回の観察と同様なことが起きている可能性があり、注意を喚起しておきたい。

なお、今回得られたオオサンショウウオの死体(標本)は、骨格標本の作成や骨組織を用いた年齢査定(野外における寿命の解明)などに活用していきたいと考えている。

謝 辞

オオサンショウウオの死体の情報を頂いた日野町の矢田貝繁明氏、日南町の比田利美氏、標本の提供、写真資料の使用を許可された米子市教育委員会の古山俊彦氏、オオサンショウウオの哺乳類による摂食についてご教示下さった日南町の松永隆宏氏、真庭遺産研究会の徳永巧氏、鳥取県におけるオオサンショウウオの保護記録についてご教示下さった野村幸弘氏に心より御礼申し上げます。

引用文献

- 生駒義弘(1960) ハンザキノートⅡ. 採集と飼育 **22**(8): 237-238.
- 環境省(2006) 鳥類, 爬虫類, 両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて. <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=7849>. 2008年1月15日確認.
- Kawamichi, T. and Ueda, H. (1998) Spawning at nests of extra-large males in the giant salamander *Andrias japonicus*. *Journal of Herpetology* **32**: 133-136.
- 小原二郎(1985) 大山椒魚. どうぶつ社, 東京, 236pp.
- 幸丸政明(2001a) 生物の保護に関する法律・制度. 遺伝 **55**(5): 26-54.
- 幸丸政明(2001b) 生物採集Q&A集. 遺伝 **55**(5): 72-75.
- Matsui, M. and Hayashi, T. (1992) Genetic uniformity in the Japanese giant salamander, *Andrias japonicus*. *Copeia* **1992**(2): 232-235.
- 中島 悟(2002) オオサンショウウオ. In: レッドデータブックとっとり 鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物(動物編). (鳥取県 編), p.83. 鳥取県生活環境部環境政策課.
- 野村幸弘(1988) 鳥取県のオオサンショウウオの分布について. 郷土と博物館 **33**(2): 14-19.
- 野村幸弘(2001) 鳥取県におけるオオサンショウウオの保護・確認情報とその考察. 鳥取生物 **33/34**: 15-18.
- Okada, S., Utsunomiya, T., Okada, T. and Felix, Z.I. (2006) Radio transmitter attachment by suturing for the Japanese giant salamander (*Andrias japonicus*). *Herpetological Review* **37**(4): 431-434.
- 佐藤真一・小溝克巳(1994) 3. 生態. In: 天然記念物オオ

- サンショウウオ生息地保存対策調査報告書. (院内町教育委員会 編), pp.20-27. 大分県宇佐郡院内町教育委員会.
- 栃本武良 (1995) 兵庫県市川水系におけるオオサンショウウオの生態Ⅷ, 繁殖生態について(2) 闘争. 動物園水族館雑誌 **36**(2): 51-57.
- 栃本武良 (1996) オオサンショウウオ. In: 日本動物大百科 5. 両生類・爬虫類・軟骨魚類. (千石正一・疋田努・松井正文・仲谷一宏 編), pp.9-10. 平凡社, 東京.
- 栃本武良 (2004) オオサンショウウオの研究XI 摂餌生態 2. 兵庫生物 **12** (5): 261-265.
- 山本賢治・野村幸弘 (1993) オオサンショウウオ. In: 鳥取のすぐれた自然 (動物編). (江原昭三・鶴崎展巨 編), pp.84-87. 鳥取県生活環境部自然保護課.